

アフターコロナを見据えた廃校活用の可能性

—第2回 九州廃校活用フォーラム実施報告—

根岸裕孝（廃校活用研究会）

1. はじめに

人口減少と少子高齢化に伴い地方圏を中心に毎年多くの廃校がみられ、その活用が求められている。

宮崎大学地域資源創成学部廃校活用研究会¹⁾は、学部長裁量経費を活用して九州廃校学会とともに第2回廃校活用フォーラムを2022年9月22日（木）14:00～17:30 宮崎市高岡町のMUKASA HUB²⁾にて対面およびオンラインによるハイブリッド形式で実施し、90名以上の参加申し込みがあった。

コロナ禍に伴い廃校活用を巡る状況は一変し、旅行・飲食の自粛等により先進的な廃校活用策として注目された取組も大きな試練を迎えた。こうしたなかで新たな地域資源を活用した新たな取組も見られるなどアフターコロナを見据えた廃校活用と地域づくりについて議論を深めた。

本稿は、その概略を同研究会の代表である根岸の文責でとりまとめたものである。

2. 基調講演および特別報告

2.1 基調講演

基調講演は、「廃校活用の現状と支援策について」というタイトルで文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課課長補佐の亀田恒治氏よりオンラインにてご講演いただいた。まず、廃校の発生状況について文部科学省調査のデータを用いて状況を解説いただき、特に九州内の特色ある廃校活用事例（宮崎県日南市、長崎県南島原市、熊本県菊池市）の紹介があった。また、文部科学省の廃校活用支援策である「みんなの廃校活用プロジェクト」³⁾や廃校活

用事例集の紹介と事例からみる活用のためのポイントが紹介された。

2.2 特別報告

特別報告として本学部教授の熊野稔氏より「特色ある廃校活用事例について」というタイトルで報告が行われた。

廃校活用にむけては廃校情報と活用ニーズをいかにマッチングするかが重要であると指摘し、宮崎県内の日之影町、門川町、五ヶ瀬町、美郷町、木城町、日南市、宮崎市、日向市、南郷町、えびの市の事例を紹介した。また県外の特色ある事例として廃校活用に積極的に取り組む徳島県三好市の事例、防災体験型宿泊施設としての宮城県東松島市の事例、さらに廃校を活用した特色ある企業誘致や道の駅への活用事例等を紹介した。

また、廃校活用の課題として廃校の活用に至りながらも撤退・撤収の事例も見られており、廃校の再活用の時代になっていることを指摘した。さらに民と公の連携によるハイブリッド型活用（校舎は民間活用、体育館とグラウンドは地元も活用等）も重要であると指摘した。

3. セッション1：コロナ禍に伴う廃校活用への影響と地域づくりの展望

セッション1は、会場であるMUKASA-HUBを運営する㈱一平ホールディングスの村岡浩司氏をコーディネイターとし、民間の立場から廃校を活用した施設運営を行っている①ユクサおおすみ海の学校（鹿児島県鹿屋市）⁴⁾川島康文氏、②LAMP豊後大野（大分県豊後大野市）⁵⁾高橋ケン氏、③TANOKAMI

STATION（鹿児島県南九州市）⁶⁾ 末吉剛士氏の代理として大重絵理氏に登壇いただき、4名で「コロナ禍に伴う廃校活用への地域づくりへの影響」について議論を行った。

最初に、4名から5分程度で廃校活用の現況について紹介があり、地域的特性や運営形態等について紹介があった。それらを踏まえて九州内で廃校活用が注目を集めたコロナ渦以前から急激な経営環境の変化が生じ大きな影響を受けたこと、そしてそれに対応すべくどのような取組を行ってきたか等について活発な議論が行われた。

そのなかで特にコロナ禍による経営環境の激変による「廃校の廃校」（廃校活用した施設の閉鎖）の回避にむけた新たな取組や行政・地域住民等との地域とのコミュニケーションの重要性について意見交換が行われた。

4. セッション2：地域コミュニティの拠点としての廃校活用の意義と可能性

セッション2では、根岸がコーディネーターを務めパネリストとして（株）地域科学研究所公共不動産ディレクター西田稔彦氏、宮崎市高岡総合支所長の宮里克朗氏、本学部教授の熊野稔氏に登壇いただいた。

西田氏から自身の所属先である（株）地域科学研究所の複数の廃校活用事例および公共不動産ディレクターとして公共不動産および公共不動産としての廃校活用のポイントについて報告いただいた。そのなかで、公共不動産としての廃校活用に際しては、地域資源の活用と人の組み合わせが大切との指摘があった。

また、宮里氏、熊野氏から西田報告についてコメントをいただくとともに村岡氏より地域コミュニティの拠点としての意義と課題についてコメントがあった。

5. 全体討論

全体討論では、九州工業大学教授の吉武哲信氏がコーディネーターを務め、議論のまとめとして4つに整理できると指摘した。

第一に、廃校の活用には地域とのつながりが大切であり、廃校のマネジメントではなく、地域のマネジメントが大切である。本日の議論では、廃校を拠点に多様な人材が交流しながら新たなものを発見し生み出す等、廃校を活用した拠点が地域のなかで上手く機能し、地域が良くなることが目指されていることが確認できた。

第二に、事業をベースにお金を生み出すことの大切さである。この数年間で制度的にも整備が進み、多様な主体が協働しやすい土壌もできつつあることもわかった。

第三に、廃校活用を考えるだけではなく、事業をやりながら考える姿勢が大切である。地域の人々との関係性を構築し、地域のニーズを読み換えてどのように事業をつくるかである。

第四に、議論のなかで「廃校の廃校」（廃校活用の運営をやめること）の話が出たようにそれを回避するために理念と経済をセットで考える必要がある。

【謝辞】

今回のフォーラムの開催にあたっては令和4年度学部長裁量経費を使用した。また開催にあたっては廃校活用研究会メンバーおよび九州廃校学会の副会長でもある本学部熊野教授および九州工業大学吉武教授、会場でもある MUKASA・HUB の村岡氏およびスタッフの皆様にご尽力いただいた。ここに記して感謝申し上げます。

——— 注 ———

1) 本学部の廃校活用研究会メンバーは以下のとおり。
根岸裕孝、桑野斉、熊野稔、丹生晃隆、土屋有、鈴木良幸。

2) MUKASA HUB の詳細は以下のとおり。
<https://ippeicompany.com/mukasa/about/mukasa/>

20230120 閲覧。

3) 文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm 20230117 閲覧。

4) ユクサおおすみ海の学校の詳細は以下のとおり。

<https://yukusa-ohsumi.jp/> 20230120 閲覧。

5) LAMP 豊後大野の詳細は以下のとおり。

<https://lampinc.co.jp/bungoohno/> 20230120 閲覧。

6) TANOKAMI STATION の詳細は以下のとおり。

<https://tanokamistation.jp/> 20230120 閲覧。